

平成22年3月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成21年11月5日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 すみや

コード番号 9939 URL <http://www.sumiya.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 矢田 猛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 宮谷 穰士

TEL 054-251-1979

四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	4,470	△21.4	△407	—	△378	—	△1,321	—
21年3月期第2四半期	5,686	—	△292	—	△279	—	△77	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	△81.02	—
21年3月期第2四半期	△4.72	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	4,918	△850	△850	471	△17.3	△52.12
21年3月期	5,703	471	471	—	8.3	28.91

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 △850百万円 21年3月期 471百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,300	△2.1	△630	—	△590	—	△2,200	—	△134.85

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	16,841,074株	21年3月期	16,841,074株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	527,631株	21年3月期	526,992株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第2四半期	16,313,866株	21年3月期第2四半期	16,316,738株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記業績予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

・定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間(4月～9月)における我が国の経済情勢は、昨年から続く世界的な金融危機の影響が引き続き大きく、輸出関連企業を中心とした企業業績低迷や、それに伴う雇用環境の悪化など、国内経済は低調に推移いたしました。小売業界におきましても、こういった経済環境を背景に、消費マインドの低下が顕著となり、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社は平成20年2月に策定した「中期経営計画」の方針である、

『東海エリアのエンタテインメントストアNo.1企業を目指す!』

『構造改革の推進により、収益力を改善し、早期の黒字化を実現する!』

の遂行を最優先課題と捉え、諸施策に取り組んでおります。

計画の2年目となる平成22年3月期は、前期に実施した施策による効果を最大化するため、「店舗収益の向上」「経営の効率化」「従業員の取組意欲向上」の3点を重点課題として、各種販促施策の展開や接客・クリンリネス等基本的なオペレーションの見直しを通じて来店客数及び売上の向上等に努めてまいりました。

店舗につきましては、平成21年7月3日に、昨年6月より改装工事を進めてまいりました当社の旗艦店「TSUTAYAすみや三島店」がリニューアルオープンを果たし、連日多くのお客様にご来店頂いております。なお、平成21年8月に1店舗の閉店を実施し、第2四半期末の総店舗数は28店舗です。

売上高につきましては、44億70百万円(前年同期比21.4%減、既存店前年同期比16.3%減)となりました。

この内訳である、商品別の売上状況につきまして下記のとおりです。

AVソフト販売の売上高は26億97百万円となりました。一部話題性のある商品などで売上が堅調に推移するものもありましたが、全体としては景況感の悪化などによる影響が大きく、売上は低迷いたしました。(前年同期比32.5%減、既存店前年同期比23.3%減)

ゲームソフト販売も市況の悪化に伴い、既存店売上は伸び悩んだものの、本年2月～3月に掛けてゲームリサイクル(中古販売・買取)を導入した7店舗の売上は順調に推移し、売上高は6億72百万円となりました。(前年同期比49.1%増、既存店前年同期比0.1%減)。

書籍は、取扱店の退店により売上高は4億1百万円と前年を下回りましたが、レンタルとの複合店舗を中心に既存店ではほぼ前年並みに推移いたしました。(前年同期比29.0%減、既存店前年同期比0.1%増)

レンタルは、消費者の低価格志向などをうけて好調に推移し、売上高は4億74百万円となりました。

(前年同期比23.2%増、既存店前年同期比12.2%増)

以上の結果、営業損失は前年同期比1億15百万円増加し4億7百万円、経常損失は前年同期比99百万円増加し3億78百万円、四半期純損失は店舗閉鎖損失引当金繰入額や減損損失などの特別損失の計上により、前年同期比12億44百万円増加し13億21百万円となりました。

■ (ご参考) 商品別売上状況

	前第2四半期 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)		当第2四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)		増減		前期 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	増減率(%)	金額(千円)	構成比(%)
CD	2,246,240	39.5	1,525,214	34.1	△721,025	△32.1	4,155,592	37.7
DVD	1,632,649	28.7	1,081,994	24.2	△550,655	△33.7	3,138,646	28.4
その他	119,710	2.1	90,750	2.0	△28,959	△24.2	250,930	2.3
音楽映像ソフト計	3,998,600	70.3	2,697,960	60.3	△1,300,640	△32.5	7,545,169	68.4
ゲーム	450,972	7.9	672,564	15.1	221,591	49.1	1,050,604	9.5
書籍	565,837	10.0	401,901	9.0	△163,936	△29.0	1,045,938	9.5
その他	208,817	3.7	128,353	2.9	△80,463	△38.5	379,507	3.4
物販計	5,224,228	91.9	3,900,780	87.3	△1,323,448	△25.3	10,021,220	90.8
レンタル計	385,014	6.8	474,159	10.6	89,144	23.2	840,822	7.6
その他(注)	77,524	1.3	95,195	2.1	17,671	22.8	173,833	1.6
合計	5,686,767	100.0	4,470,135	100.0	△1,216,632	△21.4	11,035,876	100.0

(注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。なお、単位未満は切捨て表示しております。

2. 「その他(注)」は、ポイントの使用に係る売上高です。

